

## 第3回 大牟田市庁舎整備検討委員会（摘録）

時 間	場 所
平成 30 年 7 月 27 日（金） 18：00～20：30	大牟田市役所 北別館 4 階 第 2 会議室
<b>出席者</b>	
<p>（出席委員）9 名（以下のとおり） 糸永委員、上田委員、大森委員、川満委員、椎葉委員、田中委員、中野委員、平林委員、古野委員（五十音順） （欠席委員）田上委員 ※上記の他、アドバイザーとして招聘した九州大学芸術工学研究院の吉岡准教授、事務局メンバー6 名、支援業務委託者 2 名が参加した。</p>	
<b>概 要</b>	
<b>1. 開会</b>	
…事務局より定足数を満たしていることによる会議成立の報告と配布資料の確認を行った。	
<b>2. 議事</b>	
<b>（1）市民意見の聴取の結果（報告）</b>	
<b>①各種アンケート調査の結果（速報）</b>	
…支援業務委託者（榊醇まちづくり技術研究所）より資料 1-1～1-2 に基づき、市民意見聴取の速報結果について報告を行った。	
<b>②意見交換会における主な意見</b>	
…支援業務委託者（榊醇まちづくり技術研究所）より資料 1-3 に基づき、7/5、7/17 に実施した市庁舎の整備に関する意見交換会における主なご意見について報告を行った。	
<b>③団体説明会における主な意見</b>	
…支援業務委託者（榊醇まちづくり技術研究所）より資料 1-4 に基づき、6/25 から 7/20 にかけて実施した市庁舎の整備に関する団体説明会における主なご意見について報告を行った。	
<b>（2）整備手法の検討における基礎的な条件</b>	
<b>①建築物の耐用年数</b>	
…九州大学芸術工学研究院吉岡准教授より資料 2-1 に基づき、建築物の耐用年数に対する考え方についてレクチャーを行った。 （主な意見・質問）	
<b>【A 委員】</b>	
○本館のコンクリートのひび割れを補修すれば、さらに 80 年はもつのではないかとの説明があったので、20 年後に壊れることはないのではないか。 →（アドバイザー）技術的には可能である。現状の本館に、中性化抑制や再アルカリ化を施すことで長寿命化が見込まれる。ただし、今後の維持年数はその費用とのトレードオフで決まる。	

## ②財政シミュレーション

…事務局より資料 2-2 に基づき、本館の長期的な累計費用やモデルケース別の将来負担額等について、説明を行った。

### 【B委員】

○「経済的耐用年限経過後の累計費用のイメージ」のグラフは、分かりやすいが、経済的耐用年限とはどのくらい当てになると考えていいのだろうか。

→（アドバイザー）累計費用は、新築や定期改修など費用の積み上げで、ある程度の精度が出ると思う。実際は本館の状態を見て、どこまでイニシャルコストを掛けるかによって、累計費用には相当な差が生じると思う。グラフの縦軸（累計費用）の大小をどうとるかによる。

### 【A委員】

○経済的耐用年数よりも、物理的耐用年数で試算した方が実情に合っているのではないか。

○免震でのシミュレーションとなっているが、建替え予定の本館裏側に市民サービス機能や防災拠点を集約すれば、現在の本館との役割分担を図ることができるので、本館は免震よりも安価な耐震改修でいいと思う。

→市民サービス以外の部局にも各種団体や事業者の利用があり、現時点で 5,500 m<sup>2</sup>の床面積がある本館の機能の適正な配置を検討することは難しい。また、災害発生時の業務継続性、仮庁舎が不要なことを考え、免震改修を想定したシミュレーションとした。

### 【A委員】

○耐震改修も、今後の検討の中で重要度係数を 1.5 倍とするか 1.25 倍とするかによって、より安価とすることが可能かもしれない。

### 【B委員】

○利用者が多くバリアフリーなどの対応が特に必要な建物は新築でいいのではと考えているが、今の事務局の説明にあった機能を分けるわけにはいかない理由があまり理解できていない。

→市民サービス以外の部署も災害対策本部として機能すること、災害はいつ起きかわからないことから、発災時の迅速な初動体制を確保できる免震改修を想定したシミュレーションとしている。

### 【A委員】

○耐震改修で重要度係数を 1.5 倍とすれば、災害時の初動体制にそこまで影響はないと思うがどうなのか。

→（アドバイザー）重要度係数を 1.5 倍とした耐震改修では、大地震後の建物自体の損傷は免震改修と同程度に抑制され得る。ただし、加速度入力は減少しないので、建物内部の備品等の損傷、移動を防止する対策は必要となる。

→市が災害時に迅速な初動体制を取れるか否かの判断は、人命も関わる極めて重要な事柄であり、あくまで行政側が検討する内容である。この庁舎整備検討委員会で議論すべき内容ではなく、この場での議論はご遠慮願いたい。災害時に最初に動くのは国・県ではなく、基礎自治体である市である。災害時に市が迅速に初動体制を取れることの重要性については委員の方もご理解を頂きたい。

### 【A委員】

○免震と耐震、そして重要度係数のかけ方で、改修費用が大きく異なるので耐震改修でもいいのか確認をしたくて質問している。

**【C委員】**

○市民アンケート結果によれば、市役所に対して「機能性」が求められているようだ。改修で通路を広くしたり、関連窓口を1つのフロアにまとめるなどの内部の大改造は可能なのか。

→（アドバイザー）本館は多機能なので、建築計画を考えた耐震改修計画とするべきだ。耐震補強をどの程度するかで建築計画の自由度が制限されることになるため、建築計画を含めた耐震改修計画を立てるべき。

**【D委員】**

○市民アンケートの結果が一つの答えだと思う。また、耐震改修が技術的に可能だとしても、あの建物を残す意味があるかわからないし、文化的遺産かもしれないが、改修よりコストがかかっても、安全・安心が担保され、機能の向上も図られるのであれば、建替えて市民は納得すると思う。

**【E委員】**

○本館は、できれば免震改修で現状のままなら残してもらいたいが、耐震改修でブレースを入れて外観が悪くなったり、中が狭くなるとは本末転倒だと思う。

○解体は簡単だが、あとで解体しない方が良かったと気がついて遅いので、このまま残すのか壊すのかについて議論するべきだと思う。

**(3) 「論点2：整備手法」の検討**

…事務局より資料3に基づき、整備手法の考え方について説明。また、欠席の田上委員から提出された意見を各委員に配布した。その後、本館以外と本館に分けて整備手法について意見を集約した。

(主な意見・質問)

**【B委員】**

○本館はそのまま利用できるのであれば改修して残し、その他の建物は建替えてよいと思っているが、現時点では、今までの説明や議論から得られた情報が自分の中で消化不良のような状態となっており、結論を出せないでいる。

**【C委員】**

○本館には愛着はあるが、これから100年を考えると改築してきちんと新しい建物とした方がよいと思う。

○保健所はとても古く、機能集約など市庁舎全体として考える必要がある。今回は建物毎に考えているが、最終的にもう一度、市庁舎全体で検討すべき。

**【F委員】**

○改修方法の工夫により、課題である建物内の機能向上は可能という説明もあったので、本館は免震改修で残してもいいのではないかと悩んでいる。

**【G委員】**

○耐震性がある建物はバリアフリー化などの改修を行い現状の建物を活用し、耐震性がない建物は改築すべき。本館については、市役所として利用しない前提であれば、残すことも考えられる。

**【H委員】**

○本館以外は、耐震性関係なく機能性で考えるべき。市民が利用するところは限られるので、市民が利用しない機能に特化させることができれば改修でよいと

思う。

○本館は、アンケート結果で「歴史的価値」があるとの回答が思ったより多かったが、改修で使用していくには限界のように感じるので、建替えがいいと思う。

#### 【E委員】

○本館以外は、耐震性があればそのまま利用すればよく、耐震性がない建物は補強なり建て替えるしかないと思う。

○歴史的な文化財をこの委員会で壊すかどうか検討していいのかわからないが、検討する上では費用対効果は重要だ。しかし、耐震改修でブレースが入ると文化財としての価値が下がると思う。免震改修であれば残すべきだと思う。

○この場合は、委員がいろんな意見を出し合う場だと思う。判断材料が固定的だと感じるが、以前に例として挙げた小学校の敷地の件などもっと議論すべき。

#### 【I委員】

○本館をどうするかを先に決めるべき。南別館、北別館、保健所は、耐震性の有無で判断し、新館は耐震性がなければ建替えが必要だと思う。

○本館を残し現在の新館の場所に庁舎を建てて市民サービス機能に移すという意見もあったが、市民が裏手へ回って庁舎に入ることには違和感があるし、裏手は道路の道幅も狭く利便性が低下するのでは。また、現在の本館は、入口が2階部分にあるので、見下されているような、威圧的な印象を受ける。市庁舎としてそのまま利用するのは難しいと思う。

○委員として市民の声を積極的に聞くようにしているが、このような市庁舎とその当時の大牟田市に対して歴史的なマイナスイメージを持っており、本館はすぐに壊して欲しいという市民の方もいた。

○市庁舎は海拔約4m程度の場所に立っていると思うが、有明海は干満の差が大きく台風時に平均海面が4m程まで高くなるので、決して水没しない場所ではない。初動体制を考えるのであれば、全面移転しかないような気もする。

#### 【D委員】

○南別館、北別館、保健所の建物はそのまま活用していいと思う。

#### 【B委員】

○委員会の進め方のペースが速すぎる。文化財の庁舎を残すか残さないかは、他の市町村でも揉めると思う。もっと中身を煮詰められるような委員会になればいいと思う。

#### 【D委員】

○第1回の会議の事務局からの説明では、全国的に災害が多発していることを踏まえて、市庁舎整備の検討を前倒ししていると聞いている。そのため、逆に、もっとスピーディーに検討する必要がある。

#### 【E委員】

○地震時に、現在の本館は震度どれくらいまで耐えうるのか。

→ (アドバイザー) 建物自体の耐震性は低くないので、現状の機能は維持できないかもしれないが、熊本地震レベルで無ければすぐに倒壊するものではないと考えられる。但し、塔屋は耐震性が極めて低いため対応が必要だと思う。

### 3. 閉会

…事務局より次回の会議日程等の事務連絡を行い、閉会した。

以上